
令和3年度 国立教育政策研究所委託
「全国学力・学習状況調査の CBT 化に向けた教育アセスメントの
先行事例に関する調査研究」

諸外国等の学力調査に関する調査
(概要版)

令和4年3月25日
アビームコンサルティング株式会社

目次

1. 事業概要	1
1.1. 事業の趣旨	1
1.2. 調査方法	1
2. 実施状況	2
2.1. 各学力調査の概要	2
2.2. 各学力調査の目的	3
2.3. 実施状況	4
2.4. 近年の動向	4
2.5. 我が国の示唆	4
3. CBTで実装されている機能及び特別措置	5
3.1. CBTで実装されている基本機能	5
3.2. 特に支援が必要な生徒への配慮	5
4. 項目の作成	7
4.1. 項目作成までの流れ	7
4.2. 項目とナショナルカリキュラムの関連性	7
5. 調査実施	9
5.1. 実施	9
6. 採点、分析、公表	13
6.1. 採点	13
6.2. 採点結果・分析結果のレポート	13

1. 事業概要

1.1. 事業の趣旨

○全国学力・学習状況調査（以下、「全国学調」という。）の CBT 化に向け、問題作成、結果分析、フィードバックの在り方等の検討に当たっての参考とするため、CBT を導入している先行事例等を幅広く調査する。

1.2. 調査方法

○主に、海外文献や政府等のホームページにより情報を収集し、諸外国の先行事例等を調査した。なお、諸外国の先行事例のほか、CBT 形式の国内の大規模調査・試験の調査も実施したが、本概要版の対象外とする。

○本報告書での用語の定義は以下のとおりである。

用語	意味・定義
PBT (Paper Based Testing)	テストの実施工程を項目用紙/解答用紙を使用して行う方式
CBT (Computer Based Testing)	テストの実施工程をコンピュータ上で行う方式
CAT (Computer Adaptive Testing)	項目応答理論により、回答パターンに応じて受験者ごとに異なる項目を出題する方式
特別措置	障害のある生徒や他言語を母国語とする生徒が、他生徒と同様に受験できるよう実施者側で用意した支援策
プレテスト	パイロットテストやフィールドテストなど本試験前に実施するテスト
項目	出題する各問題

2. 実施状況

2.1. 各学力調査の概要

○本調査では、アメリカ、オーストラリア、フランス、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ニュージーランド、ドイツ、TIMSS、カリフォルニア州の学力調査を対象とした。各学力調査の概要は以下のとおりである（別添「海外の先行事例 実施状況一覧」も参照）。

2.1.1. アメリカ

○アメリカでは、1969年から全米学力調査（National Assessment of Educational Progress : NAEP）が実施されている。目的は、国、州、地域レベルでの生徒の成績に関する情報を収集し、報告することで、教育の状況と進歩を評価することである。初等・中等教育機関の生徒(K-12 : 5歳～18歳)のうち、4年生（9～10歳）、8年生（13～14歳）、12年生（17～18歳）を対象に抽出方式で実施される。連邦法では、すべての州、学区、学校、生徒の受験は任意とされているが、Title 資金を受け取る州では4、8年生の読解と数学の受験が義務付けられている。科目は数学、読解、科学、ライティング、技術と工学リテラシー、芸術、公民、地理、経済、歴史で構成されているが、対象とする学年や科目、分析範囲（全米、州、都市部の地区）は実施年により異なる。

2.1.2. オーストラリア

○オーストラリアでは、2008年から全国評価プログラム-読み書きと計算能力（National Assessment Program - Literacy and Numeracy: NAPLAN）が実施されている。NAPLANの目的は政府、教育機関、学校、地域社会が、オーストラリアの生徒が重要な教育成果を達成しているかを判断することである。3年生（7～8歳）、5年生（9～10歳）、7年生（11～12歳）、9年生（13～14歳）の生徒を対象とした悉皆方式の試験であり、科目は計算能力、リーディング、ライティング、言語規則で構成される。

2.1.3. フランス

○フランスでは、1989年から全国一斉学力調査が実施されている。調査の目的は、①教師が生徒の成績を把握し授業の向上を図ること、②指導者（校長・学長および地域教育検査官など）が結果を把握し、教育活動をより最適化させること、③全国レベルで教育システムのパフォーマンスを測定することの3点である。CP（6～7歳）、CE1（7～8歳）、第6学年（11～12歳）、第2学年（15～16歳）を対象に実施される。科目は、フランス語と数学である。第6学年と第2学年の調査はCAT方式で実施されている。

2.1.4. オランダ

○オランダでは2015年から初等教育の8年生（11歳～12歳）に対し、最終テスト（Eindtoets）の受験を義務付けている。最終テストは、オランダ政府から委任された試験・検定委員会（College voor Toetsen en Examens : CvTE）が実施するもののほか、大臣の認可を受けた4つの民間テストが対象となる。実施期間は実施団体で異なる。この結果をもとにその生徒に適した中等教育を検討する。科目は数学と言語が必須科目で、実施団体により追加の科目が設けられている場合がある。

2.1.5. スウェーデン

○スウェーデンでは1997年から全国試験（Nationella Prov : NP）が実施されている。目的は、学校、地域、国レベルで知識要件が満たされているかを評価するための基礎情報を提供することである。3年生（9～10歳）、6年生（12～13歳）、9年生（15～16歳）（サ－ミ人学校は3、6年生）、特別学校の4年生（10～11歳）、7年生（13～14歳）、10年生（16～17歳）、高等学校の最終コース、成人教育、移民向けに悉皆方式で実施されている。数学、スウェーデン語、英語に加え、一部学年では学校ごとに生物学/物理学/化学から構成される選択科目、地学/歴史/宗教学/社会科学から構成される選択科目が実施されている。

2.1.6. デンマーク

○デンマークでは 2011 年から全国試験（Nationale test）が実施されている。全国試験の目的は、小学校の評価文化を強化し、全国で統一的に評価できるツールを提供することである。2～8年生の間に各科目合わせて 10 回受験することが義務付けられている。科目はデンマーク語、英語、数学、物理/科学の受験が必須で、生物学、地理学、第二言語としてのデンマーク語の受験は任意である。

2.1.7. ニュージーランド

○ニュージーランドでは 2012 年から全国学習到達度モニタリング調査（National Monitoring Study of Student Achievement : NMSSA）が実施されている。目的は、オタゴ大学の教育評価研究ユニット（EARU）とニュージーランド教育研究評議会（NZCER）の共同研究として、生徒の学習到達度の全体像を把握することである。4年生（8～9歳）と8年生（12～13歳）を対象に抽出方式で実施される。毎年 200 の学校が無作為に選ばれ、各学校から最大 25 人の生徒が評価プログラムに参加する。科目は数学、言語学習、英語、科学、社会、テクノロジー、技術情報、芸術、保健体育と多岐にわたるが、実施科目は毎年様々である。

2.1.8. ドイツ

○ドイツでは 2004 年から VERA（VERgleichsArbeiten）が実施されている。目的は、教育基準に対する生徒のパフォーマンスを調査・比較することで、教師や学校が指導計画の振り返りと改善を行う機会を提供することである。教師、学校はテスト結果により各クラス・学校の生徒が得意・苦手とする能力分野を把握し、授業の改善に役立てることが求められている。3年生（8～9歳）と8年生（13～14歳）を対象に実施されている。科目は、3年生が数学及びドイツ語、8年生が数学、ドイツ語、英語もしくはフランス語で構成されるが、実施科目及び実施方式は州ごとに異なっている。

2.1.9. TIMSS

○TIMSS は、1995 年から国際教育到達度評価学会（International Association for the Evaluation of Educational Achievement : IEA）によって実施されている国際教育比較調査である。目的は、初等中等教育段階における児童・生徒の算数・数学及び理科の教育到達度を国際的な尺度によって測定し、児童・生徒の学習環境条件等の諸要因との関係を分析することである。調査は 4 年生（日本では小学 4 年生）、8 年生（日本では中学 2 年生）を対象に抽出方式で 4 年毎に実施されている。

2.1.10. カリフォルニア州

○アメリカ カリフォルニア州では 2014 年以降、カリフォルニア州の生徒の成績と進歩の評価（California Assessment of Student Performance and Progress : CAASPP）を実施している。目的は質の高い指導と学習を促進し、教師や教育指導者、生徒、保護者を支援することである。科目は、数学、英語、科学、スペイン語（希望者のみ）で構成され、必須科目ごとに実施学年が設定されている。

2.2. 各学力調査の目的

○調査対象とした各学力調査の目的を整理すると、大きく 3 つの目的に分類される。

- ① 各国が定めた教育基準に対する、生徒の学習成果等の達成度調査を目的とした学力調査
（アメリカ、オーストラリア、スウェーデン、ニュージーランド）
- ② 教師や学校等の教育関係者へ教育指導等の改善を図るための情報提供を目的とした学力調査
（フランス、デンマーク、ドイツ、カリフォルニア州）
- ③ 生徒への進学に関するアドバイスを目的とした学力調査（オランダ）

2.3. 実施状況

2.3.1. 科目

- 調査対象とした各国の学力調査は全て、第一言語及び数学（算数）を必須科目として実施されている。
- スウェーデン、デンマーク、ドイツ、カリフォルニア州は上記に加え第二言語も調査科目としている。
- アメリカ、デンマーク、ニュージーランド、カリフォルニア州は、理科や社会系の科目も対象としている。

2.3.2. 実施規模

- 悉皆方式：オーストラリア、フランス、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、カリフォルニア州
- 抽出方式：アメリカ、ニュージーランド、TIMSS

2.3.3. 実施方式

2021 年までの調査実績における各学力調査の実施方式は以下のとおりである。

- PBT 方式：スウェーデン、ニュージーランド
- CBT 方式：アメリカ、デンマーク
- PBT 方式と CBT 方式の併用：オーストラリア、フランス、オランダ、ドイツ、TIMSS、カリフォルニア州

2.4. 近年の動向

- オーストラリアでは、PBT 方式と CBT 方式の併用期間を終了し、2022 年度から CBT 方式へ完全移行する予定である。
- オランダでは、現行の最終テストを廃止し、フロールーテストと呼ばれる、高校進学のためのテストに取って代わる法案が、2022 年にオランダ上院で審議される予定である。フロールーテストは政府が実施する試験と企業が実施する 4 つの試験の計 5 つから選んで受験する。
- スウェーデンでは 2023 年の CBT 方式導入を目指し、2018 年から、デジタル全国試験（Digitala nationella prov : DNP）のトライアル活動を開始したが、導入開始目標を 2023 年から 2024 年に変更することを発表した。導入開始を延期した理由は、以下 3 つの課題が発生したためである。
 - 2020 年 7 月、欧州司法裁判所が下したシュレムス II 判決（EEA 域内から米国への個人情報の越境移転について、十分性を認めるプライバシーシールド決定を無効とする判決）の影響で、米国企業のクラウドサービスの利用を想定していたテストプラットフォームを調査（調達先の変更の可能性）しなければならない。
 - 上記の調査結果を国内のデータ保護局（Integritetsskyddsmyndigheten : IMY）に報告し、今後の方針を双方で検討しなければならない。
 - EU を離脱した英国に対する欧州委員会の EU 圏での取り扱い方針の影響を考慮しなければならない（英国サプライヤーとの契約変更の可能性）。

2.5. 我が国の示唆

○以降の各章において、我が国の示唆となる事項を、以下の項目ごとに整理した。

- CBT で実装されている機能及び特別措置
- 項目の作成
- 調査実施
- 採点、分析、公表

3. CBT で実装されている機能及び特別措置

3.1. CBT で実装されている基本機能

○CBT 方式では、テストに参加する全ての生徒が画面上で多様な機能を活用できる仕様になっている。(アメリカ)

- 文字サイズ及び画像サイズの拡大機能 (文字/画像サイズを 2 倍まで拡大する。)
- 音声の読み上げ機能
- コントラストの調整機能
- スクラッチワーク・ハイライト機能 (画面上にフリーハンドで絵を描く、またはハイライトする。)
- 選択肢の消去機能 (複数の選択肢がある場合に、選択した選択肢を消去する。)
- 出力音声のボリューム調整機能
- キャプション機能 (ボイスオーバー箇所に、字幕を表示する。)
- スペルチェック機能・類語辞典閲覧機能 (ライティングのみ実装、スペルを自動チェックし、類語を調べる。)

3.2. 特に支援が必要な生徒への配慮

3.2.1. 支援対象となりうる生徒

- 心身的な観点からサポートを必要とする生徒
- 知能的な観点からサポートを必要とする生徒
- 他国の言語を母国語とする生徒 (カリフォルニア州実施の CAASPP では、現地学校に通い始めて 1 年以内の英語学習者)

3.2.2. 支援内容を決定する者

○主催団体が特別措置の対応可否及び措置内容を判断する・・・アメリカ、オランダ

- オランダでは、生徒に対する支援が、定められた特別措置だけでは不十分であると校長が判断した場合、独断での調整は認められていないため、主催団体である CvTE に連絡し協議することになっている。

○教師や学校が判断する・・・オーストラリア、フランス、スウェーデン、デンマーク、ニュージーランド

教師は、生徒の状況に配慮し、テストを計画することが求められる。特定の生徒へ、どのような支援を行うかは、その生徒が所属する学校の校長や教師によって協議され、決定される。

- オーストラリアでは、各学校が支援を必要とする各生徒へ適切な措置を提供できるように、主催団体が生徒の状況に応じた対応策について、わかりやすく整理した複数の事例を公表している。
- フランスでは、対象の生徒に AESH (Accompagnant d'élèves en situation de handicap) と呼ばれる介助者を付けるか、協議の上学校が判断するようになっている。

3.2.3. PBT 方式での支援事例

○PBT では下記対応を実施している (アメリカ/オーストラリア/オランダの事例)。

- 視覚障害のある生徒用の点字版プリント
- 読字障害(失読症や言語発達障害など)や視覚障害のある生徒のための MP3 オーディオファイルによる項目の読み上げ (USB フラッシュドライブで提供)
- 読字障害(失読症や言語発達障害など)や視覚障害のある生徒用の音声合成ソフトを使用した PDF 版 (USB フラッシュドライブで提供)
- 視覚障害のある生徒用の掲載写真を少なくし、レイアウトを明確に表示した PDF 版
- 色覚異常の生徒のための、モノクロ版プリント

3.2.4. CBTで方式での支援事例

○CBT ではコンピュータやタブレットに搭載された機能等を利用しながら、下記対応を実施している（アメリカ/オーストラリア/オランダの事例）。

- 機能表示の拡大（ツールやメニュー、電卓などを拡大表示する。）
- 低モビリティ版テスト（マウスやタッチパッドを使用せずキーボードのみで操作する。）
- 聴覚障害者用テスト（聴覚コンテンツに字幕を表示する。）
- 視覚障害者用カラーコントラスト
- 口頭での解答、介助者による解答の書き取り（ライティングは除く）
- 難聴や聴覚障害のある生徒のためのサウンドクリップのないテスト

3.2.5. その他特徴的な支援事例

○障害のある生徒が試験に十分に解答できなかった場合には、別の日に試験を延期する措置を取ることが可能である。また、それぞれの障害に応じた次のような配慮がなされている。

- テストを一時停止する（ADHD や自閉症、脳性麻痺、発達障害の生徒対象）
- 英語のリスニング試験免除（聴覚障害のある生徒対象）
- 読み上げ機能の使用及び画像に含まれるテキスト読み上げのための教師の補助（失読症の生徒対象）
- マウスを使用しない項目^{※1}のみ表示（視覚障害のある生徒対象）

※1：過去の項目やサンプル項目は、著作権により保護されており、アクセスは子供教育省のテスト受験機関によって制限されている。UNI・login にアクセスできる教師や専門家のみ、学校や教育機関での教育目的のために教材をダウンロードし、使用できるため、マウスの使用が必要ない項目の出題例を閲覧、掲載することはできない。

3.2.6. 特別措置を実施していないテスト

○TIMSS では校長や学校関係者の判断により、障害のある生徒を調査対象外とする場合がある。ただし、テストの状況下でパフォーマンスを発揮できる場合は受験すべきとしている。

3.2.7. 特別措置を必要とする生徒専用のテストを用意している事例

○悉皆方式で CAASPP が実施されているカリフォルニア州では、障害等の理由でテストへの参加が難しく、IEP^{※2} で教育を受けている生徒を対象に、代替評価と呼ばれるテストを実施している。障害のある生徒のための代替達成基準に基づいて項目が出題され、生徒をよく知る試験官と 1 対 1 の環境で行われる。

※2：The Individualized Education Program (IEP)とは、初等・中等教育機関に通う障害が確認された児童を対象に、専門的な指導と関連サービスを受けられるように策定されたプログラムのことである。

○悉皆方式で VERA が実施されているドイツでは、障害があり特別支援教育を受ける生徒の受験は任意となっている（通常学級に所属し障害のある生徒が受験した場合、クラス全体の成績からは除外）。また、障害の種類に応じてカスタマイズされたテスト冊子を作成している。

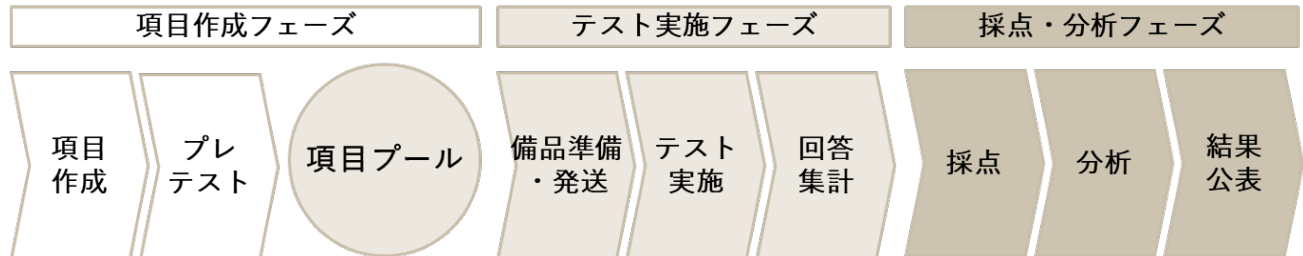
4. 項目の作成

4.1. 項目作成までの流れ

4.1.1. 基本的な項目作成の流れ

○諸外国の項目作成から結果公表までの基本的な流れは以下のとおりである。

図表 4.1-1 項目作成～結果公表までの基本的な流れ



4.1.2. 項目作成に携わる団体等

- アメリカでは、州知事や州議会議員、州・地域の学校関係者、教育者、企業関係者、一般市民などのメンバーで構成された国家評価管理委員会が各科目のフレームワークを作成する。その後、作成されたフレームワークを基に主催団体である NCES（全米教育統計センター）が項目の作成を行う。
- オーストラリアでは、主催団体である ACARA（オーストラリア教育課程評価報告機関）がテスト開発ガイドラインの見直しから項目作成までを担っている。
- オランダでは、項目（出題数、出題分野、出題形式など）は初等教育のテストに関する法令（Toetsbesluit PO, 2014 年）で定められており、その法令に基づき実施団体（行政機関及び 4 つの民間実施団体）がそれぞれ項目を作成している。
- スウェーデンでは、カリキュラム、科目、シラバスの分析に基づいて、複数の大学が項目を設計している。
- ドイツは、主催団体である IQB（教育分野の質向上のための研究機関）が中心となり、各州から派遣される教師らと試験項目作成チームを組織し、試験実施の 2-3 年前から開始し、項目を作成している。

4.2. 項目とナショナルカリキュラムの関連性

4.2.1. 関連あり

- オーストラリアでは現在、小学校・中学校におけるナショナルカリキュラムである「the Australian Curriculum: Mathematics」及び「the Australian Curriculum: English」に沿って、項目が出題されている。
- オランダでは、2010 年に制定された「Wet referentieniveaus Nederlandse taal en rekenen eindto（オランダ語及び算術の基準レベルに関する法律）」に則って項目が出題される。「オランダ語及び算術の基準レベルに関する法律」には、オランダ語と算数の学習領域で、児童が何を知っていて、何ができるようになるべきかの基準を 4 段階（低：1F⇒2F⇒3F⇒1S：高）で示している。これらの基準のうち最終テストは、8 年生が 1F レベルにどの程度準拠しているかを確認する。
- スウェーデンでは、出題される項目は、カリキュラムに基づいて作成されている。2022 年秋ごろに、小学校、特別支援学校、サームの学校のカリキュラム変更が予定されているため、今後、変更されたカリキュラムに基づいて項目が調整される予定である。
- デンマークの教育は「Fælles Mål（共通の目標）」と呼ばれる学校の教科ごとに生徒が何を学ぶべきかの国家目標が定められている。出題項目は、生徒が学年ごとに各教科で何ができるようになるべきかという「共通の目標」に基づいている。
- ニュージーランドでは、「The New Zealand Curriculum」を基に項目が作成されている。
- ドイツでは、教科・技能ごとに生徒が習得すべき能力の基準を記した「Bildungsstandards（教育基準）」を基に項目が作成されている。教育基準には、生徒が習得すべき各能力の到達度が 5 段階で示されており、VERA の項目は、5 段階のいずれかのレベルに振り分けられる難易度で設定され、1 つの試験項目冊子中の各項目の難易度はばらつくように調整されている。
- カリフォルニア州では、「Common Core State Standards（CCSS）」を基に作成されたカリキュラムに基づいて項目が作成されている。

Common Core State Standards (CCSS) について

CCSS は、州教育長協議会と全米州知事会のもと、州の指導者によって定められた州主導の教育基準のことである。英語及び数学について、生徒が進学や就業の準備を整えるための明瞭で一貫したフレームワークを提供することを目的に、教師や学校管理者、専門家との協同で開発された（2009年に策定、2010年に採択）。なお、CCSSを採用するかは各州の判断によるため任意である。

4.2.2. 関連なし

○アメリカでは全州で統一的なカリキュラムがあるわけではなく、各州がそれぞれカリキュラムを作成している。そして、多くの州は Common Core State Standards (CCSS) を基にカリキュラムが作成されている。CCSS 導入以前は、各州の学力を共通の尺度で評価・比較できる唯一の手段が NAEP であった。現在は多くの州が CCSS を採用しているため比較は容易になった。しかし、CCSS を採用していない州もあるため NAEP が生徒の学力結果を州間で比較するための指標である役割は継続している。

4.2.3. プレテストの実施

○アメリカでは、項目作成後パイロットテスト及びフィールドテストを実施している。

- パイロットテスト

評価項目のわかりやすさ、難易度、出題タイミング、実現可能性、特別な管理状況などに関する情報を得ることを目的としている。このパイロットテストにより、本番テストで出題する評価項目を選定する。

- フィールドテスト

新規評価項目を対象に本番テストの1年前に実施する。フィールドテストを実施することで、評価項目を事前に調整し、調査年の評価データの分析を容易に行うことを目的としている。ブロックごとに約2,000人の生徒で実施する。

○オーストラリアでは、項目作成後試行試験を実施している。各州・準州、セクター、地域から代表的な生徒サンプル（先住民と非先住民）が参加し、評価項目を試行する。得られたデータは、NAPLANの作成機関とは独立した心理測定専門家によって分析され、テストの仕様に合った評価項目が各試験の構成要素として選定される。

○ドイツでは、本試験の1年前に全16州のうち8州から学校を抽出し、約3,000人の生徒を対象に、本試験で出題する項目の最終化を目的としたパイロット試験を実施している。パイロット試験は、抽出された学校の教師がマニュアルを基に実施する場合と、テスト管理者が対象校に出向き実施する場合がある。

4.2.4. 特徴的な項目体制の事例

○スウェーデンでは、一部科目で口頭試問を採用している。口頭試問のパートは他のパートと同様に解答必須の項目である。各学校は、課外活動として、1日または複数日に設定した半日の間に口頭試問を実施する。複数の科目の口頭試問は同じ日に行われることが多く、生徒がテストを受けていない時間帯は、他の教師が授業や野外活動、その他の学校関連の活動を担当している。上記に記載のとおり、口頭試問の項目は非公開となっている。

○ニュージーランドでは、一部科目で、「viewing assessment（視聴評価）」を採用している。生徒は特定の動画（アニメや映画の一部）を視聴した後、項目に解答する。

5. 調査実施

5.1. 実施

5.1.1. 実施期間

○各国の2022年実施スケジュールは以下のとおりである。CBT方式の場合、一定の期間で実施している。

○オーストラリアでは5月第2週火曜日から第3週金曜日にかけて実施される（CBT方式は平日の9日間、PBT方式は前半の平日3日間）。CBT方式では、各学校は生徒の受験スケジュールを実施期間内で柔軟に組むことができる。生徒が体調不良等により学校側のスケジュールで受験ができなかった場合、学校側は残りのCBT方式実施期間中にテストを手配するようになっている。

図表 5.1-1 2022年実施スケジュール

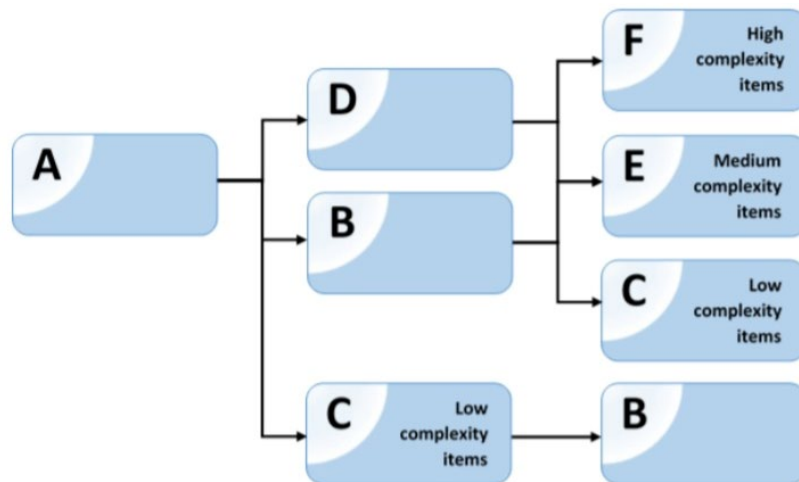
2022年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アメリカ		1/24~3/18							始業			
オーストラリア	始業				5/10~ 5/20							
フランス								始業	9月中 (現時点では 詳細未定)			
オランダ (CVTE)				4/20~ 5/13			始業					
スウェーデン			3/6~5/17 (科目、学年により実施日が決まっている)					始業			11/7~12/9 (スピーキング・ 口頭試験)	
デンマーク			3/1~4/30					始業				
ドイツ	CBT 1/11~4/1, PBT 3/7~3/25 (NRW州の場合)							始業				
カリフォルニア州	1月11日~7月15日 (上記期間中で地方教育機関が実施日を決める)								始業			

※ニュージーランドは、2022年の調査スケジュールは現在未定。

5.1.2. CAT方式による出題事例

○オーストラリアでは、「Multi-Staged-Adaptive（多段階適応型）」デザインを採用し、より高い達成度を示した生徒で、その内容が論理的推論（数値計算の場合）またはテキストの証拠（読解の場合）で解決できた場合には、現在の学年レベルまたは学年レベル以上の、より複雑なカリキュラムを評価する項目が含まれたテストレットに分岐されるようになっている。達成度の低い生徒は、現在の学年レベル以下のカリキュラムの重要な側面を評価する、より複雑ではない項目で構成されたテストレットに分岐されるようになっている。

図表 5.1-2 Multi-Staged-Adaptive の構成



Students complete three testlets per year level, and follow one of the seven pathways below:

A → B → C
A → D → C
A → C → B

A → B → E
A → D → E

A → B → F
A → D → F

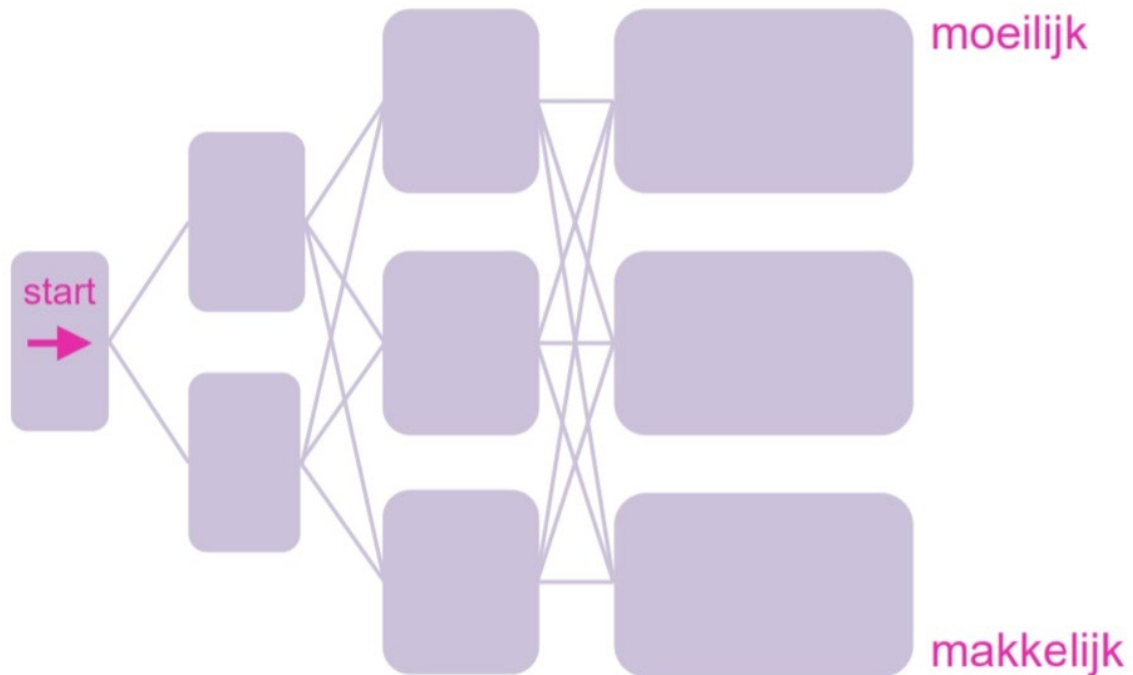
まず、全ての生徒は、最初にテストレット A を完了させる。テストレット A での成績に応じて、生徒は 2 番目のテストレットに分岐される。成績の悪い生徒はテストレット B に、成績の良い生徒はテストレット D に誘導される。2 回目の分岐点では、2 つのテストレットの得点に基づいて、テストレット C、E、F のいずれかに誘導される。なお、テストレット A で非常に低い能力推定値を得た生徒は、テストレット C に誘導され、そこからテストレット B に進む。推定能力が非常に低い生徒にとって、A-C-B 経路は、A-B-C 経路よりもストレスが少なく、より魅力的で、自分のスキル、知識、理解の程度をより良く示すことができるよう設計されている。

○オランダでは、数学、読解、文法と言語スキル、ライティングの 4 つの必須科目がテストパートで構成されている。各学校は、各生徒のオプションの世界オリエンテーションを選択することができる。なお、数学、読解、文法と言語スキルは、適応テストだが、ライティングと世界オリエンテーション適応テストではない。出題される項目は様々であり、選択項目、公開項目、答えを正しい箱にドラッグする項目、絵の中の正解をクリックする項目などがある。また、画像や音の断片を使った項目も出題される。また、音声合成をはじめとするデジタ支援も用意しており、特別支援教育（SSE）や特別初等教育（SBO）の生徒、その他特別なニーズを持つ生徒が受験できる環境を整備している。

- テストパート 1：数学、読解、文法と言語スキルに関する 16 問で構成され、1 つのレベルで提供される。
- テストパート 2：数学、読解、文法と言語スキルに関する 25 問で構成され、各科目が 2 つのレベルで別々に実施される。
- テストパート 3：数学、読解、文法と言語スキルに関する 29 問で構成され、各科目が 3 つのレベルで別々に実施される。
- テストパート 4：数学、読解、文法と言語スキルに関する 50 問で構成され、各科目が 3 つのレベルで別々に実施される。
さらに、このテストパートでは、ライティングに関する 20 問（全ての生徒に同じ項目）が出題される。
- テストパート 5（オプション）：世界オリエンテーションに関する 90 問（全ての生徒に同じ項目）が出題される。

テストパートごとに生徒のレベルを測定し、各テストパートの測定結果を合計して、トータルスコアを算出する。また、数学、読解、文法と言語スキルの各レベルは別々に測定するので、各生徒のレベルに合わせて科目ごとに試験する項目を変更できる。

図表 5.1-3 Digitale Adaptieve の構成



5.1.3. 教師がテストを実施する事例

○オーストラリアでは、テストを監督する教師のために実施要領を作成し、提供している。要領にはテスト開始時や終了時の発言内容が記載されており、各教師は、その内容を適切なタイミングで読み上げなければならない。

○ドイツでは主催団体である IQB にて作成された試験項目が、リスニング項目の CD、試験実施マニュアルなどと併せてパッケージとして各学校に送付され、各教師が試験を運営・監督する。

5.1.4. CBT 実施に関わる設備等準備の事例

○各学校が設備等を準備する事例

- オーストラリアでは、オンライン・ナショナル・アセスメント・プラットフォームと呼ばれるプラットフォームを通じて学校にテスト項目が配信される。学校側は、テスト実施前にデバイス（コンピュータやタブレット）へ学生がインターネットにアクセスできないようにするためロックダウンブラウザ（LDB）をインストールしなければならない。
- オランダの CvTE が主催する中央最終テストでは、CBT 方式でテストを実施するためのデジタルシステム（Facet）を構築しており、中央最終テストへ参加を決めた各学校は事前にデバイス（コンピュータやタブレット）へ Facet のソフトウェアをインストールしなければならない。

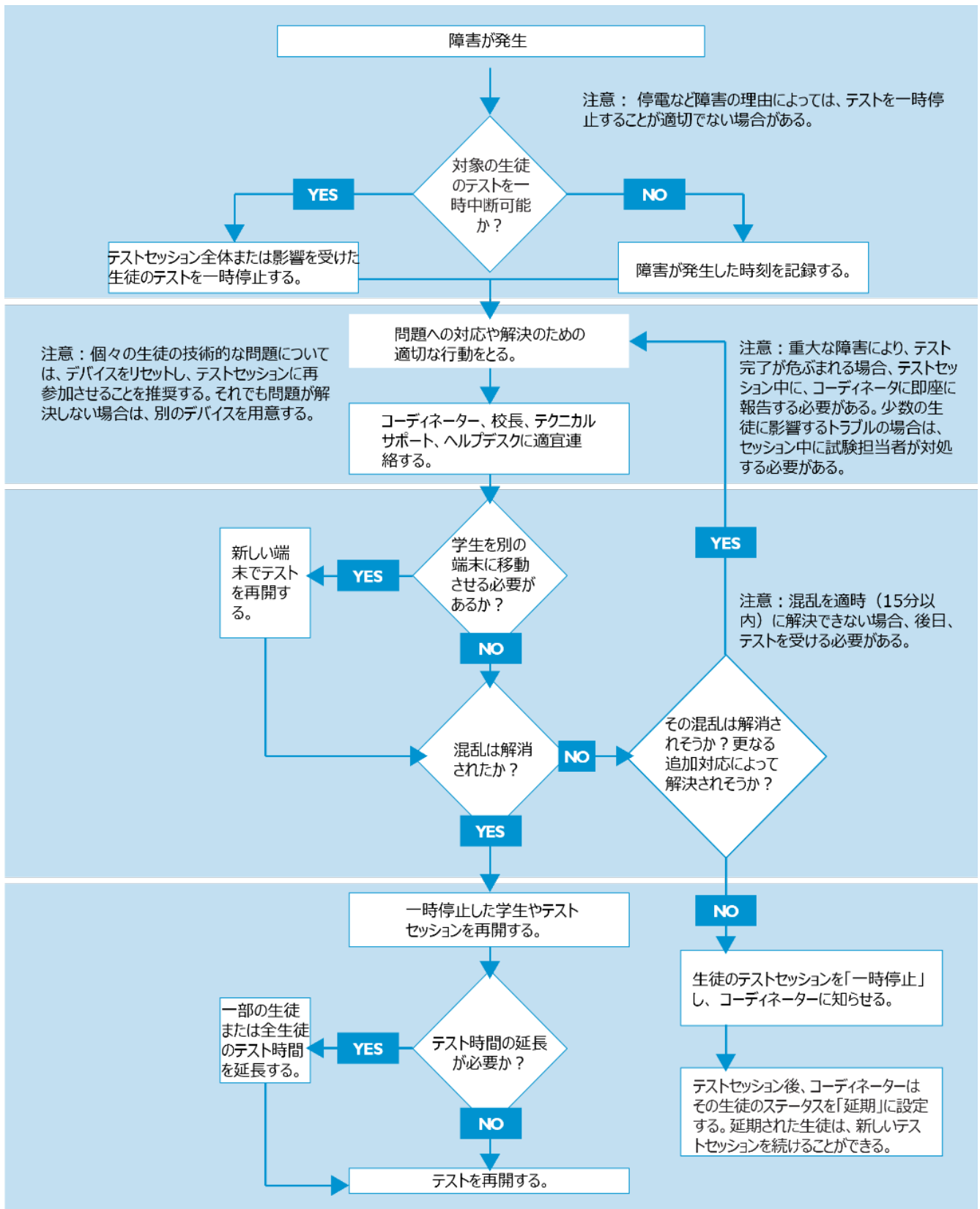
○各生徒が所有するデバイスを使用した事例

- オーストラリアでは、一部の学校で Bring Your Own Device（BYOD）ポリシーを採用している場合がある。BYOD ポリシーを採用している学校の生徒で、規定された技術要件を満たすデバイスを所有し、且つ事前にインターネットにアクセスできないようにするためロックダウンブラウザ（LDB）をインストールしている場合に限り、生徒が所有するデバイスでテストに参加することが認められている。

5.1.5. CBT 方式にて機材トラブル等が発生した場合の対応

○オーストラリアでは、教師が試験中のデバイスや通信に関わるトラブルに対処できるよう以下のような対応方針をとっている。

図表 5.1-4 CBT 方式実施時のトラブル対応（オーストラリア）



6. 採点、分析、公表

6.1. 採点

6.1.1. 採点事例

○自動採点を導入している事例（アメリカ、オランダ）

- アメリカでは、中央サーバーに送られてきた解答データを、出題形式（複数選択項目/短い構築応答項目/拡張構築応答項目）ごとに採点する。複数選択項目は自動採点、短い構築応答項目と拡張構築応答項目は、トレーニングされた採点担当者によって採点する。
- オランダでは、PBT 方式は教師より採点され、CBT 方式は自動採点される。なお、解答用紙（PBT）は、CBT の採点集計場所にてスキャンされ、電子化される（解答用紙は半年間保管）。その後、ポータル上の各生徒の個人情報と電子化された解答は紐づけされる。
- ドイツでは、IQB より配布されるガイドラインに従って各学校の教師が採点し、州ごとに決められた期限までに結果をオンラインポータル上に入力する。（外部機関への採点委託の導入を開始している州もあり、教師の負担軽減が図られている事例もある。）正確な採点のため、複数の教師による採点結果の相互チェック等が推奨されている。また、CBT 試験の場合は、採点はほぼ自動化されており、教師は自由記述解答のみ採点する。

○自動採点を導入していない事例（スウェーデン）

- スウェーデンでは、採点は各学校で行われる。採点后、各学校は全生徒の採点データをスウェーデン統計局（SCB）へ提出する。また、生徒の回答データと教師のテストに関するアンケートは開発した大学・専門学校にも提出する。

6.2. 採点結果・分析結果のレポート

6.2.1. 各国のレポート状況

○各国の分析レベル（生徒単位での分析、学校単位での分析、地域単位での分析、全参加者単位での分析）及び提供している分析ツールやオンラインポータルは以下のとおりである。

図表 6.2-1 報告レベルと提供しているオンラインツール一覧

報告レベル	アメリカ	オーストラリア	フランス	オランダ (CVTE)	スウェーデン	
レポート対象	生徒	-	○	○	○	
	学校	-	○	○	○	
	地域 (州など)	○	○	-	-	
	国	○	○	○	-	
提供ツール	教師対象	・NAEP Questions Tool ・Item Maps Tool ・State Profiles	・MySchool	・Portail DEPP	・Portal Centrale Eindtoets	※実施団体 HP に統計データあり
	専門家対象	・The NAEP Data Explorer	-	-	-	

報告レベル	デンマーク	ニュージーランド	TIMSS	カリフォルニア	
レポート対象	生徒	非公開のため不明	外部へ非公開のため不明	-	○
	学校			-	○
	地域 (州など)			-	○
	国			○	-
提供ツール	教師対象	・UNILogin	・NMSSA Science Toolkit	-	・Test Operations Management System ・CAASPP System
	専門家対象		・研究のための NMSSA データ	・IDB Analyzer ・NCES Data Explorer	-

ドイツについては、一部の参加州間で、テスト結果を比較できるオンラインポータル「Vera8-Portal」等を、教育者向けに提供している。また、各州の担当機関（大学等）が詳細な結果分析を実施、各学校にフィードバックをそれぞれ行っている。

6.2.2. 提供ツール・オンラインポータルの紹介

○アメリカ（NAEP）のリソース提供事例

【教育者のためのリソース】

データツール：NAEP Questions Tool（NQT）

評価に使用された項目の一部は NQT を通じて一般公開されており、全科目から、3,000 以上の公開項目が利用できる ようになっている。ユーザーは、項目の検索や、パフォーマンスデータの閲覧、項目を使ってテストが可能である。また、ユーザーが独自にカスタマイズした評価（項目群）の作成や保存、名簿作成ができる。なお、このツールで公開される項目は、特定の科目の評価内容や認知スキル、難易度を完全に網羅しているわけではなく、模擬試験として使用されることも意図していないとされている。

図表 6.2-2 NAEP Questions Tool メイン画面

NAEP Questions Tool

Analyze Data | Sample Questions | State Comparisons | State Profiles | District Profiles

NAEP Questions Tool

Already have an account? [Sign in](#)
Make a roster and save your selections. [Create an account](#)

Search Questions

- Explore thousands of questions by grade, year, and content area.
- See sample student responses and data.

search

Test Yourself

- Try answering some of the same questions that students have responded to on actual NAEP assessments.
- See how your scores compare to those of students across the nation.

try

Create Tests

- Select a subject and grade and get a **pre-selected assessment**, or make all the choices yourself and create your own **customized assessment**.

pre-selected

customized

enter your student test ID to take your assessment

About Questions Tool | Copyright Policy | Accessible Version | System Requirements | Help

データツール：Item Maps Tool（項目マップ）

項目マップは、生徒のパフォーマンスを理解するために提供されているツールである。科目、学年、及び実施年ごとに閲覧できるようにになっている。

それぞれの評価について、例題がスケール上にマッピングされており、マップの上部にはより難しい項目が、マップの下部にはより簡単な項目が配置されている。マップは、各項目に解答するために必要な知識やスキルも記載されている。また、マップ上の項目の位置は、特定のスコアを持つ生徒がその項目に正解する確率が高いことを示している。項目マップ上に記載されている内容は下記のとおりである。

- スケール（スケールの範囲は科目により0～300または0～500）
- スケールスコア（項目に正解する、または、正解する可能性が高い生徒の得点。部分的な正解により得点を獲得できる項目（構成応答項目）の場合は、その部分ごとにマップ上にスケールスコアが表示される場合があり、「CR（Constructed-response）」と記載されている。）
- 正解するために、生徒が知っておくべきこと、または何をする必要のあるかを示す説明
- 科目ごとの出題分野
- 達成度（Basic、Proficient、Advanced）を示すカットスコア
- 項目（テストで使用しなくなった項目のみ：ハイパーリンクで表示）

データツール：State Profiles

State Profiles では、各州の教育関係者向けに、自州の結果と他の州の結果を比較するためのツールを提供している。学年ごとに数学、読解、ライティング及び科学における州または管轄区域のデータを検索できる。

図表 6.2-3 Item Maps Tool サンプル (2017年、8年生対象に実施した数学の場合)

Mathematics, Grade 8, 2017

CONTENT CLASSIFICATIONS

Click on a classification to see a description.

● Number Properties and Operations	■ Measurement	▲ Geometry	▼ Data Analysis, Statistics, and Probability	◆ Algebra
------------------------------------	---------------	------------	--	-----------

500



- ▼ 388 [Evaluate a circle graph and bar graph to determine possible sets of data](#)—Extended (CR)
- ▲ 385 Analyze intersection of two circles (MC)
- ▲ 374 [Identify characteristics of lines and angles in a plane](#)—Correct (SR)
- ▼ 374 [Evaluate a circle graph and bar graph to determine possible sets of data](#)—Satisfactory (CR)
- 369 Estimate the radius of a circle given the area (MC)
- ▲ 357 Decompose a composite shape in more than one way—Correct (SR)
- ▼ 343 [Evaluate a circle graph and bar graph to determine possible sets of data](#)—Partial (CR)
- 341 Evaluate multiple representations of rational numbers in context—Extended (CR)
- ▼ 335 [Use theoretical probability to predict an outcome \(calculator available\)](#) (MC)

333 NAEP Advanced ?

- ◆ 332 [Convert from degrees Fahrenheit to degrees Celsius \(calculator available\)](#)—Correct (CR)
- ◆ 329 [Interpret the meaning of a linear equation in a context \(calculator available\)](#) (MC)
- 327 [Find the midpoint between rational numbers on a number line \(calculator available\)](#)—Correct (CR)
- ▼ 322 [Compare the means of two sets of data \(calculator available\)](#) (MC)
- ▲ 321 Decompose a composite shape in more than one way—Partial (SR)
- ▲ 321 [Identify characteristics of lines and angles in a plane](#)—Partial (SR)
- 310 [Find the product of two two-digit decimals](#)—Correct (CR)
- 308 Evaluate multiple representations of rational numbers in context—Satisfactory (CR)
- 304 Determine the actual distance between points on a map—Correct (SR)
- ▼ 299 [Evaluate a circle graph and bar graph to determine possible sets of data](#)—Minimal (CR)

299 NAEP Proficient ?

- 298 Evaluate multiple representations of rational numbers in context—Partial (CR)
- 293 [Find the midpoint between rational numbers on a number line \(calculator available\)](#)—Partial (CR)
- ▲ 293 [Use similarity to compute perimeter of a triangle \(calculator available\)](#) (MC)
- 289 [Compare measurements using unit conversions](#)—Correct (SR)
- ◆ 280 Interpret the rate of change defined by a linear equation (calculator available)—Correct (SR)
- 275 Determine the actual distance between points on a map—Partial (SR)
- 271 Determine population of a city given density and area (calculator available) (MC)
- ◆ 270 [Complete a table from a description of a linear relationship \(calculator available\)](#)—Correct (CR)

262 NAEP Basic ?

- 261 Use order of operations (MC)
- ▲ 256 Determine the shortest path between two points—Correct (SR)
- ◆ 250 [Complete a table from a description of a linear relationship \(calculator available\)](#)—Partial (CR)
- 243 Evaluate multiple representations of rational numbers in context—Minimal (CR)
- 237 [Compare measurements using unit conversions](#)—Partial (SR)

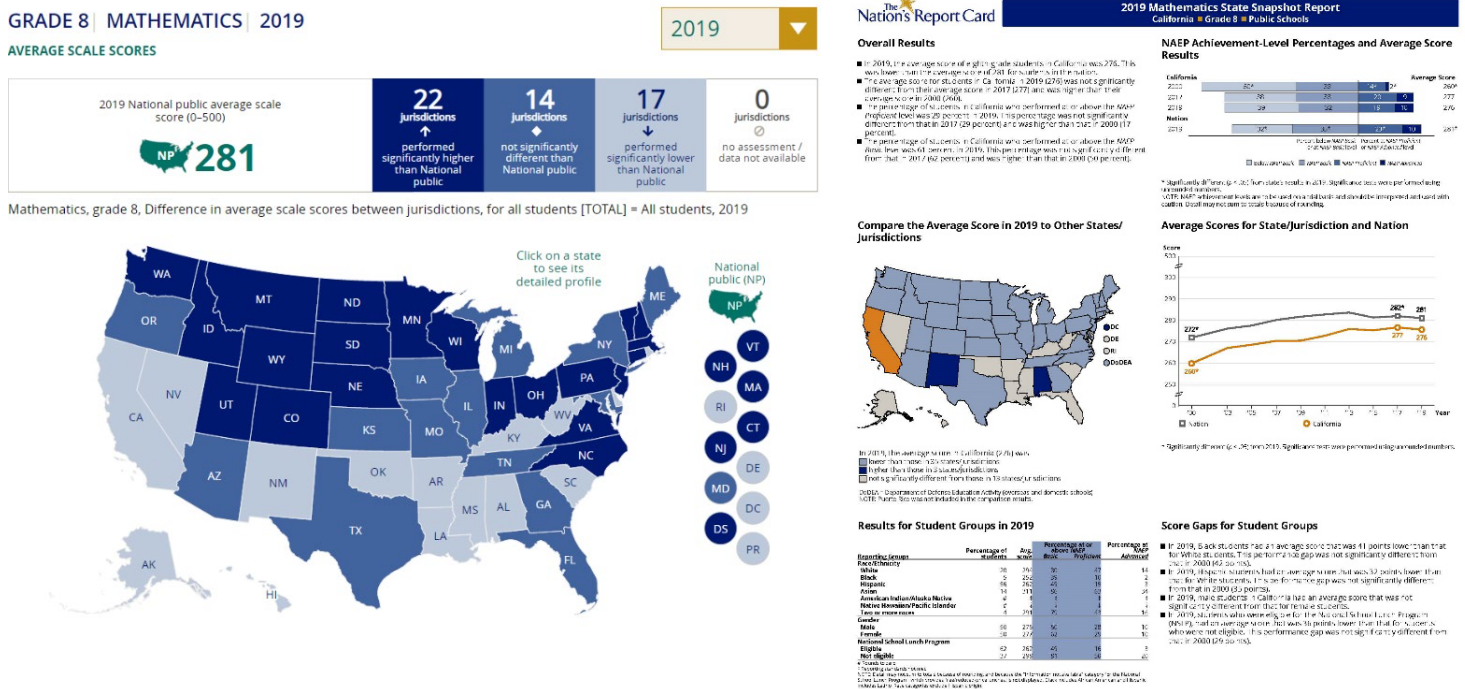


0

データツール : Mapping State Proficiency Standards

NCES は、各州が設定した習熟度基準を比較できるよう、「Mapping State Proficiency Standards (州熟練度基準のマッピング)」というレポートを公表している。各州は習熟度基準を独自に設定しているため、各州の教育コンテンツを直接比較することはできない。NCES は、等化スコアが記載された本レポートを提供することにより、各州の教育関係者が、自州の教育コンテンツのデータを他の州と比較できるよう支援している。

図表 6.2-4 State Profiles (例)

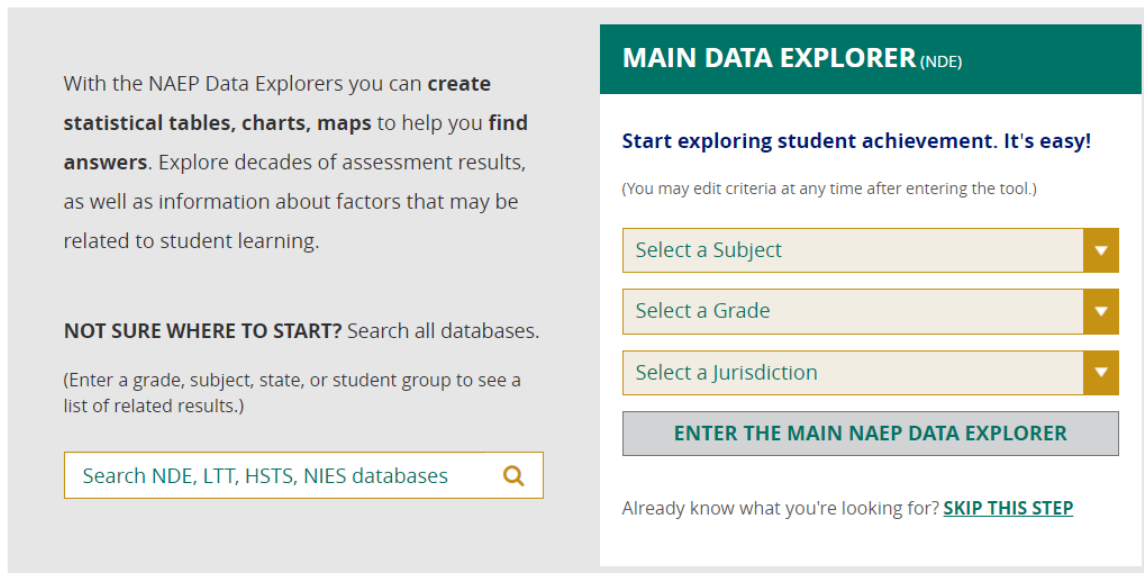


【研究者のためのリソース】

データツール : The NAEP Data Explorer (NDE)

NDE は、複数年にわたるテスト結果を、ユーザーが指定した統計グループや、エリア（州または都市部の地区ごと）、出題科目ごとにカスタマイズされた結果（表やグラフ、マップ）を表示できるツールである。また、指定した統計データをクロス集計することも可能である。NDE は、科目ごとのデータの他、長期トレンド（LTT）や、高校成績証明書研究、インディアン国立教育に関するデータも使用可能である。

図表 6.2-5 The NAEP Data Explorer のメイン画面



○オーストラリア（NAPLAN）のリソース提供事例

データツール：Myschool

学校ごとの調査結果を実施年ごとに公表している。データは、全国の平均結果や同じような教育背景を持つ生徒たちと比較できる形で提供されている。

図表 6.2-6 MySchoolの検索結果（例）

Student results

The table below shows the average student results at this school for the selected year.

The cell colour shows how the school's results compare to those of students with a [similar background](#). You can also see whether the selected school's results are above, close to or below those of all students nationally by selecting 'All Australian students'.

Tap on or [hover over](#) any cell to see the average score for all Australian students, for students from a [similar background](#) and the margin of error at 90 per cent [level of confidence](#).

Please note that from 2019, the method for determining the colour coding of results changed.

	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Year 3	515	472	490	564	500	500
Year 5	556	518	550	551	489-512	489-512

NAPLAN participation for this school is 99%
NAPLAN participation for all Australian students is 95%

^{NS} In 2020 education ministers' decided that NAPLAN testing would not proceed that year due to the COVID-19 pandemic.

Interpreting the table

Selected school's average when compared to students with a similar background

- Well above
- Above
- Close to
- Below
- Well below
- No comparison available

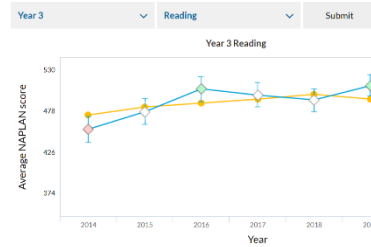
Student results over time

The graph below shows the average NAPLAN score for all students at the school in each [domain](#) over time, compared to the average score of students with a [similar background](#). Use the drop-down menu to change the year level and the [domain](#).

The colour of the diamonds show how the school's results compared to those of students with a [similar background](#). The whiskers around the diamond show the margin of error at 90 per cent [level of confidence](#). You can also see these results compared to all students nationally by selecting 'All Australian students'.

The background of students has been shown to have an impact on NAPLAN results. Student background includes parental occupation and education.

The NAPLAN Online logo and a dotted line is shown for those schools that participated in NAPLAN Online in 2019.



Interpreting the graph

Selected school's average when compared to students with a similar background

- Well above
- Above
- Close to
- Below
- Well below
- No comparison available
- 90% level of confidence

Select categories:
 Selected school Students with similar background All Australian students

Please note that from 2019, the method for determining the colour coding of results changed.

^{NS} In 2020 education ministers' decided that NAPLAN testing would not proceed that year due to the COVID-19 pandemic.

<参考文献>

- アメリカ : National Assessment of Educational Progress (NAEP)
National Center for Education Statistics HP, The National Assessment Governing Board HP
- オーストラリア : National Assessment Program - Literacy and Numeracy (NAPLAN)
Australian Curriculum, Assessment And Reporting Authority (ACARA) HP
- フランス : L'évaluation nationale des acquis des élèves
Ministère de l'Éducation nationale et de la Jeunesse HP
- オランダ : Centrale Eindtoets
College voor Toetsen en Examens HP, Stichting Cito HP
- スウェーデン : Nationella Prov (NP)
Skolverket. HP
- デンマーク : Nationale Test
Børne- og Undervisningsministeriet HP
- ニュージーランド : National Monitoring Study of Student Achievement (NMSSA)
The New Zealand Council for Educational Research (NZCER) HP, The Educational Assessment Research Unit (EARU) HP
- ドイツ : VERgleichsArbeiten (VERA)
Institut zur Qualitätsentwicklung im Bildungswesen (IQB) HP, Niedersachsen Kultusministerium HP, Kultusministerkonferenz HP, Institut für Bildungsanalysen Baden-Württemberg HP
- TIMSS : Trends in International Mathematics and Science Study (TIMSS)
International Association for the Evaluation of Educational Achievement (IEA) HP
- カリフォルニア州 : California Assessment of Student Performance and Progress (CAASPP)
California Department of Education) HP,

国立教育政策研究所委託
「全国学力・学習状況調査の CBT 化に向けた教育アセスメントの先行事例に関する調査研究」

諸外国等の学力調査に関する調査（概要版）

作成機関：アビームコンサルティング株式会社

海外の先行事例 実施状況一覧

調査対象国等	アメリカ	オーストラリア	フランス	オランダ	スウェーデン	デンマーク	ニュージーランド	ドイツ	TIMSS	カリフォルニア州
調査対象テスト名	National Assessment of Educational Progress (NAEP)	National Assessment Program - Literacy and Numeracy (NAPLAN)	L'évaluation nationale des acquis des élèves	Eindtoets	Nationella Prov (NP)	Nationale Test	National Monitoring Study of Student Achievement (NMSSA)	VERgleichsArbeiten (VERA)	Trends in International Mathematics and Science Study (TIMSS)	California Assessment of Student Performance and Progress (CAASPP)
主催団体	National Center for Education Statistics (NCES)	Australian Curriculum, Assessment And Reporting Authority (ACARA)	Ministère de l'Éducation nationale et de la Jeunesse	・CVTE (行政機関) ・VISION (民間) ・ICE 事務局 (民間) ・Diataal (民間) ・AMN (民間)	Skolverket	Børne- og Undervisningsministeriet	The Educational Assessment Research Unit (EARU)、the New Zealand Council for Educational Research (NZCER)	Institut zur Qualitätsentwicklung im Bildungswesen (IQB)	International Association for the Evaluation of Educational Achievement (IEA)	California Department of Education)
調査目的	全米、州、地域レベルで生徒の成績に関する情報を収集し教育の状況と進歩を評価する。	政府、教育局、学校及び地域社会が生徒の教育成果の達成度を評価する。	・教師が生徒の成績を把握し授業の向上を図る。 ・指導者(校長・学長及び地域教育検査官など)が結果を把握し、教育活動の最適化を測る。 ・全国レベルでの教育システムのパフォーマンスを測定する。	生徒が中等教育で受けるべき教育をアドバイスする。	学校、地域、国レベルで知識要件が満たされているかを評価するための基礎情報を提供する。	小学校の評価文化を強化し、全国で统一的に評価できるツールを提供する。	生徒の学習到達度の全体像を把握する。	教育基準に対する生徒のパフォーマンスを調査・比較することで、教師や学校が指導計画の振り返りと発展するための機会を提供する。	初等中等教育段階における生徒の算数・数学及び理科の教育到達度を国際的な尺度により測定し、学習環境条件等の諸要因との関係を分析する。	質の高い指導と学習を促進し、教師や教育指導者、生徒、保護者を支援する。
調査開始年	1969年	2008年	1989年	2015年	1997年	2011年	2012年	2004年	1995年	2014年
科目数	10科目	2科目(4種で構成)	2科目	2科目+a	10科目(選択科目あり)	7科目(任意科目あり)	9科目	3科目(選択科目あり)	2科目	4科目(選択科目あり)
科目	数学、読解、科学、ライティング、技術と工学リテラシー、芸術、公民、地理、経済、歴史 ※科目により実施年が異なる。	計算能力、識字能力(リーディング、ライティング、言語規則)	数学、フランス語	数学、オランダ語(+独自科目) ※実施団体により追加の科目が設けられている場合がある。	数学、スウェーデン語、英語 小学9年生と専門学校10年生には、下記選択科目も実施する。 生物学/物理学/化学のうち1科目、地学/歴史/宗教学/社会科学のうち1科目※各学校がどの選択科目を実施するかは教育庁が決める。 また、学校の生徒は全員同じ科目で試験を受ける。	デンマーク語、数学、英語、物理学/化学、生物学、地理学、第二言語としてのデンマーク語 生物学、地理学、第二言語としてのデンマーク語の受験は任意である。英語のリスニングは4年生を対象とし、生物学及び地理学は8年生、第二言語としてのデンマーク語は5、7年生を対象としている。	数学、言語学習、英語、科学、社会、テクノロジー、技術情報、芸術、保険・体育 ※科目により実施年が異なる。	数学、ドイツ語、英語又はフランス語 ※受験科目及び受験方式は州ごとに異なっている。	数学、理科	数学、英語、科学、スペイン語 ※スペイン語は希望の生徒のみ受験する。
学力対象学年	4年生、8年生、12年生	3年生、5年生、7年生、9年生	CP、CE1、6EME、2de	8年生	小学3、6、9年生(サード人学校は3、6年生)、専門学校の4、7、10年生、高等学校の最終コース、成人教育、移民	2年生～8年生で10回受験	4年生、8年生	3年生、8年生	4年生、8年生	3年生～8年生、11年生
対象者の抽出有無	抽出方式	悉皆方式	悉皆方式	悉皆方式	悉皆方式	悉皆方式	抽出方式	悉皆方式	抽出方式	悉皆方式
実施方式	CBT方式で実施している。(地理と社会は次回実施時にCBT方式へ移行)	PBT方式とCBT方式を併用で実施している。	PBT方式とCBT方式を併用で実施している。	実施団体で異なる。	CBT方式は試験的に実施している。	CBT方式で実施している。	PBT方式で実施している。	州で異なる。	PBT方式とCBT方式を併用で実施している。	CBT方式で実施している。
支援を必要とする生徒への対応	【方式問わず】 ・マンツーマンのテスト ・少人数でのテスト ・実施時間延長、途中休憩 ・座席配慮、個室の用意 ・手話での指示や選択肢の表現(読解は除く) ・英語とスペイン語のバイリンガルバージョン ・二言語辞典の使用 【PBT方式のみ】 ・指示書の読み上げ ・ラージプリントの用意 ・点字版テスト 【CAT方式のみ】 ・機能表示の拡大(ツールやメニュー、電卓などを拡大表示する。)	【方式問わず】 ・実施時間延長、途中休憩 【PBT方式のみ】 ・指示書の読み上げ、代筆 ・ラージプリント、白黒印刷、点字版プリントの用意 ・電子化したテスト形式(テスト冊子を電子的にPDF化したもの) 【CAT方式のみ】 ・読み上げ機能などの支援技術 ・代替質問 ・5種類のカラーテーマ	障害を持つ生徒に下記対策を用意しサポートしている。 ・ラージプリント、点字表記のペーパーの用意 ・介助者の同席 ・実施時間延長 ・テストを分割して実施	【PBT方式】 ・点字版プリント ・MP3オーディオファイルによる項目の読み上げ ・音声合成ソフトを使用したPDF版 ・掲載写真を少なくし、レイアウトを明確に表示したPDF版 ・モノクロ版プリント(ワールドオリエンテーションのみ) 【CAT方式】 ・サウンドクリップのない形式 ・聴覚支援 ・ズーム機能 ・ハイライト機能 なお、	・項目の読み上げ ・ラージプリントの用意 ・文字と画像が識別しやすい特別なカラーチャートで印刷されたプリントの用意 ・実施時間延長、分割して実施 ・辞書の使用 なお、支援を受けるために生徒が正式な診断を受ける必要はない。教師は、生徒の状況に基づいてテストを計画することが求められる。	障害のある生徒が試験に十分に解答できなかった場合には、別の日に試験を延期する措置を取ることが可能である。また、それぞれの障害に応じた下記配慮がなされている。 ・テストを一時停止する ・英語のリスニング試験免除 ・読み上げ機能の使用 ・画像に含まれるテキスト読み上げのための教師の補助 ・マウスを使用しない項目のみ表示	障害のある生徒や読み書きが難しい生徒に対しては、項目の読み上げやラージプリントを用意しサポートしている。なお、支援を受けるために生徒が正式な診断を受ける必要はない。教師は、生徒の状況に基づいてテストを計画することが求められる。	各州の各学校の判断により支援措置が決定される。 ・ドイツ語以外が母国語の生徒のドイツ語試験の免除 ・特別支援教育対象の生徒のVERA参加の免除 ・特別支援教育対象の生徒用にカスタマイズされた試験問題冊子の提供	機能障害のある生徒、知能障害のある生徒は、校長や学校関係者の判断によって調査対象外となる場合がある。ただし、テストの状況下でパフォーマンスを発揮できる機能障害のある生徒は受験すべきと定められている。	障害のある生徒を対象とした以下2種類のテストを実施している。 ・カリフォルニア代替評価(英語・数学)(CAAs) ・カリフォルニア代替評価(科学)(CAA)

		・低モビリティ版テスト（マウスやタッチパッドを使用せずキーボードのみで操作する。） ・聴覚障害者用テスト（聴覚コンテンツに字幕を表示する。） ・視覚障害者用カラーコントラスト ・口頭での解答、介助者による解答の書き取り（ライティングは除く）			特別学校に通う生徒、IQ が75 未満の生徒、学習障害等を持つ生徒は受験の義務が免除される。						
結果公表	スケールスコアと達成度の2軸で分析され、各管轄区域（全米、州、都市部の地区）、性別、社会経済的地位、人種・民族、その他の人口統計情報ごとに結果が記載される。なお、管轄区域によって集計対象の学年、学校は異なる。また、学校単位及び個人単位の結果は報告されない。	NAPLAN の結果は教育と学習の改善のサポートに役立てられる。結果データより、学校は他の州および準州における最低基準や生徒の成績と比較することができる。個々の生徒の成績レポートは、州および準州によってすべての生徒とその保護者に提供される。	評価は、Depp (Direction de l'évaluation, de la prospective et de la performance) が、国家教育科学評議会(Csen)、Igésr (Inspectorate General of Education, Sport and Research)、学校教育総局(Dgesco)と緊密に協力して行っている。	試験を受けた生徒はポータルサイトでレポートをダウンロードすることができる。このレポートには、スコアとアドバイスが含まれている。その後、学校レベルでのレポートもポータルで利用できるようになる。学校レポートは、全国平均との関連に関する考察が主に示されており、学校間で比較できるようになっている。	国立教育庁の委託を受けたスウェーデン統計局 (SCB) が結果を収集している。各科目で問題種別ごとに達成度を設けており、参加生徒の達成割合を男女別やスウェーデン語を母国語としているか、学生の両親の教育レベルごとで公表している。	各科目における生徒の学力レベルを測定することで、生徒や生徒群がどの分野で専門的な長所と短所を持っているか公表する。また、各学生が同じ科目で複数のテストを完了した場合、個々のテストコースの結果を比較できる。	研究者、教育者、大学院研究生が教育研究のために使用できるデータをオンライン上に用意している。生徒や学校が特定されないようデータは匿名化されている。	本試験が生徒個人々の成績評価や各学校のレベル評価を目的とした位置付けではなく、国の教育基準に照らした生徒の学習状況を把握し、教育活動の質向上に活かすことであることを踏まえ、本試験の結果を根拠に成績評価や進路指導を行うことは明示的に禁止されている。	結果は参加国別に、科目ごとの平均点推移、男女別平均点推移で公表される。また、家庭環境（家庭で所有する書籍数や両親が受けた教育レベル）や学校環境（教師の教育レベルや満足度）との相関関係を調査し公表している。	テスト結果は、スケールスコアと達成度の2軸で分析され、各管轄区域（州、郡、地区、学校、学生グループ）や性別、人種・民族、障害の有無ごとに結果が公表される。	
レポート対象	生徒	-	○	○	○	○	外部へ非公開のため不明	外部へ非公開のため不明	各州の担当機関（大学等）がそれぞれ結果分析を実施し、各学校にフィードバックを行っている。	-	○
	学校	-	○	○	○	○				-	○
	地域（州など）	○	○	-	-	○				-	○
	国	○	○	○	-	○				○	-
提供ツール	教師対象	・NAEP Questions Tool ・Item Maps Tool ・State Profiles	・MySchool	・Portail DEPP	・Portal Centrale Eindtoets	※実施団体 HP に統計データあり	・UNILogin	・NMSSA Science Toolkit	・Vera8-Portal 等（州ごとに提供、複数州で共同提供もあり）	-	・Test Operations Management System ・CAASPP System
	専門家対象	・The NAEP Data Explorer	-	-	-	-		・研究のための NMSSA データ		・IDB Analyzer ・NCES Data Explorer	-
最近の動向	2021 年、データを効率的に収集するため新しい評価設計の調査を開始した。より少ない学校の少数の生徒で正確なデータを取得することを目標としている。	2022 年に全ての学校が CAT 方式に移行予定である。	-	現行の最終テストを廃止し、フロールーテストと呼ばれる、高校進学のためのテストに取って代わる法案が、2022 年にオランダ上院で審議される予定である。	2023 年の CBT 方式導入を目指し、2018 年から、デジタル全国試験 (Digitala nationella prov : DNP) のトライアル活動を開始したが、導入開始目標を 2023 年から 2024 年に変更した。	全国試験に代わって、2027 年までに全国技能試験 (Folkeskolens nationale færdighedstest) が開始されることが 2021 年 10 月に決定した。	-	今後数年間のうちに全州で CBT 方式への移行を予定している。	2023 年に CBT (eTIMSS) へ完全移行を予定している。	カリフォルニア州の数学カリキュラムの変更が議論を呼んでおり、全米の教育関係者が廃止を訴えている。	